

伊丹市

## 南町遺跡

— 伊丹南町団地建替事業（第 2 期）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —



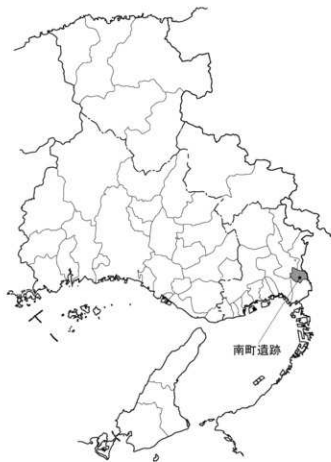
令和 6（2024）年 3 月

兵庫県教育委員会

伊丹市

# 南町遺跡

— 伊丹南町団地建替事業（第2期）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —



令和6（2024）年3月

兵庫県教育委員会

## 例 言

- 1 本書は、伊丹市南町に所在する南町遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、伊丹南町団地建替事業（第2期）に伴うもので、兵庫県住宅供給公社理事長の依頼に基づき、兵庫県教育委員会を調査主体として、令和4年度に兵庫県立考古博物館が調査を実施し、令和5年度に公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部が出土品整理事業を実施した。
- 3 調査の推移  
(発掘作業)  
詳細分布調査 令和2年7月27・29日  
実施機関：兵庫県立考古博物館  
本発掘調査 令和4年8月8日～令和4年9月9日  
実施機関：兵庫県立考古博物館  
(出土品整理作業)  
令和5年4月1日～令和6年3月31日  
実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
- 4 本書の編集・執筆は、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部の荻野麻衣と新山王綾子の補助のもと、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部企画調整課の鈴木康高が担当した。
- 5 本調査において出土した遺物や作成した写真・図面類は、兵庫県教育委員会（兵庫県立考古博物館）で保管している。
- 6 調査及び測量にあたっては、本体工事受注事業者である宮崎建設株式会社の協力を受け、実施した。
- 7 遺物写真撮影は、株式会社 地域文化財研究所に委託し、実施した。
- 8 本書に使用した方位は国土座標（第V系）の座標北を示す。また、標高値は東京湾平均海水面（T.P.）を基準とした。

## 本文目次

第1章 立地と周辺の調査	1
第2章 調査の経過	5
第1節 調査に至る経緯と経過	5
第2節 出土品整理	5
第3章 遺構	6
第1節 基本層序	6
第2節 1～3区の遺構	6
第4章 遺物	8
第1節 遺物の概要	8
第2節 土器類	8
第5章 まとめ	10

## 図版目次

図版1 遺構	1～3区遺構平面図 (1:250)
図版2 遺構	1区北壁・2区北壁断面図 (1:60)
図版3 遺構	2区北壁・西壁断面図 (1:60)
図版4 遺構	3区北壁・西壁断面図 (1:60)
図版5 遺構	1区SK 5、2区SK 3・21・28・55・60・SX76実測図 (1:40、SX76のみ1:10)
図版6 遺構	1 調査地近景 (南東から) 2 1区全景 (東から)
図版7 遺構	1 2区全景 (東から) 2 3区全景 (東から)
図版8 遺構	1 1区 SK 5 (北から) 2 1区 SK15・16 (南から) 3 2区 SK21 (東から) 4 2区 SK60 (北東から) 5 2区 SK28 (東から) 6 2区 SX76 (北西から) 7 2区 SX76半截 (北から)
図版9 遺物	出土土器

## 挿 図 目 次

図 1 調査地位置図 (1 : 25,000) .....	1
図 2 周辺調査位置図 (1 : 5,000) .....	2
図 3 土器実測図 (1 : 4・1 : 6) .....	9

## 表 目 次

表 1 主要周辺調査一覧表 .....	3
---------------------	---



## 第1章 立地と周辺の調査

南町遺跡は、兵庫縣南東部の伊丹市に位置し、市域は東部を南流する猪名川と西部の武庫川にはさまれる。地形的には、猪名川と武庫川によって形成される沖積平野とその間に広がる伊丹段丘に分けられ、調査地点は伊丹段丘の縁辺部に位置する。

本報告の周辺の遺跡については、近隣の関連性の高い遺跡を対象とし、特に発掘調査が行われたものについて言及することとする。南町遺跡の周辺で行われた既往の調査については、図2、表1のとおりである。本報告にあたって、遺跡単位で調査番号を付したが、一部の遺跡は今回の図の範囲外にも広がっているため、遺跡単位で全ての調査を網羅できていない。

南町遺跡では本調査の西側で調査2が行われ、古墳時代中期末前後の土取り穴群（当該報告においては、「粘土採掘土壌群」と呼称するが、本報告においては「土取り穴」として報告する）や中世の水田跡が検出されている。また、本調査の東側に位置する南本町遺跡（調査3・4）では、古墳の周溝や飛鳥時代から奈良時代にかけての掘立柱建物・井戸・塀などが検出されており、奈良時代の畜串や櫛などの木製品・墨書土器・製塩土器といった特徴的な遺物が出土している。飛鳥時代から奈良時代にかけての遺跡の性格は氏族居宅の可能性が指摘されている（文献2）。この他にも、中世の掘立柱建物や井戸、古墳を利用したと考えられる葬跡などが検出されており、古墳時代から中世にかけて、断続的に遺構・遺物が確認できる。

また、本調査地の南東は尼崎市域となり、周知の埋蔵文化財包蔵地が比較的濃密に分布するとともに、

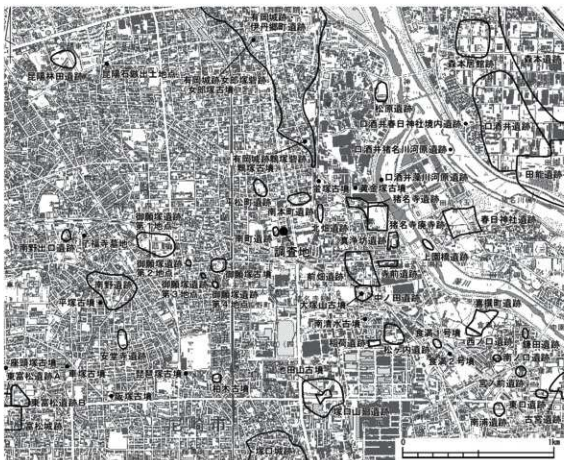


図1 調査地位置図 (1 : 25,000)

発掘調査が行われ、遺跡の実態が比較的良く分かる範囲となっている。調査5・6の猪名寺遺跡では、弥生時代の後期のピットや奈良時代の柱列・溝などが検出されている。また、調査9～19の前畑遺跡では、弥生時代の溝・溝状遺構・ピット、古墳時代の掘立柱建物・溝状遺構・土坑、奈良時代以降の掘立柱建物・溝状遺構・落込み状遺構・土坑などが検出されている。調査20～23の中ノ田遺跡では、弥生時代の溝状遺構・土坑・落込み状遺構、園田大塚山古墳の周濠、奈良時代の掘立柱建物・溝状遺構・土坑などが検出されている。また、円面硯や緑軸陶器・石帯などの遺跡の性格を伺わせる特徴的な遺物が出土しており、一般的な集落ではないと指摘されている（文献19）。

以上、概観してきたように、周辺には主に、弥生時代後期から古墳時代中期の集落や古墳、飛鳥時代から奈良時代にかけての遺構・遺物が比較的多く分布している地域といえる。



図2 周辺調査位置図 (1:5,000)



表1 主要周辺調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	方法	調査概要	文献
1	南町遺跡	伊丹市南町2-3-6	発掘	飛鳥時代以前の土坑。 奈良時代以降の土坑。	本報告
2		伊丹市南町2-29他	発掘	古墳時代中期の土取り穴群。 中世以降の耕作地。	1
3	南木町遺跡	伊丹市南木町1・2・4・5・7、南町3	発掘	古墳時代の周溝。飛鳥～奈良時代の 掘立柱建物・井戸・堀・溝・土坑。中世 の掘立柱建物・井戸・溝・土坑。近世 の掘立柱建物・堀・溝・土坑。 奈良時代の木器（倉串・櫛・曲物）・ 黒書土器・製塩土器。	2
4		伊丹市南町3-28-1	発掘	古墳時代後期の古墳。奈良時代の掘立 柱建物。戦国時代の倉跡。	3
5	猪名寺遺跡	尼崎市猪名寺1-571	立会 発掘	弥生時代後期のビット。奈良時代の柱 列・溝。	4
6		尼崎市猪名寺1-556	確認	時期不明のビット。	5
7	猪名寺廃寺跡	尼崎市猪名寺1-557-3・558-2	確認	室町時代以降の井戸。白鳳期～室町時 代の瓦葺。	6
8		尼崎市猪名寺1-524	確認	猪名寺廃寺の整地層。鎌倉時代の瓦溜 り。	7
9	前畑遺跡	尼崎市猪名寺1-319-1	確認	遺構・遺物なし。	8
10		尼崎市猪名寺1-310-1他	立会 発掘	弥生時代後期の溝状遺構・土坑・ビット。 古墳時代以降の掘立柱建物。	9
11		尼崎市猪名寺2-881-1・881-2	発掘	弥生時代の溝。古墳時代～奈良時代の 掘立柱建物。	10・11
12		尼崎市猪名寺2-288-2	確認	奈良時代の土坑。奈良時代以降の溝状 遺構。	12
13		尼崎市猪名寺2-289-6	確認	古墳時代の不明遺構。	13
14		尼崎市猪名寺2-289-3	確認	古墳時代後期の掘立柱建物・溝状遺 構・土坑。	14
15		尼崎市猪名寺2-310-3他	確認	弥生時代のビット。奈良時代以降の落 込み状遺構。	15
16		尼崎市猪名寺2-308-1	確認	奈良時代の掘立柱建物・土坑・ビット。	16
17		尼崎市猪名寺2-285-14	確認	近世以降の掘立。	17
18		尼崎市猪名寺2-895	確認	弥生時代の溝状遺構。	18
19		尼崎市猪名寺2-12-15・13-13	発掘	溝状遺構・落込み状遺構。	20
20	中ノ田遺跡		発掘	弥生時代後期の溝状遺構・土坑・落込 み状遺構。 園田大塚山古墳の周溝。 奈良時代以降の掘立柱建物。 緑釉陶器・石帯出土。	19・20
21		尼崎市猪名寺2-915・916・917	確認	奈良時代の掘立柱建物・溝状遺構。	21
22		尼崎市南清水312・313	発掘	奈良時代の掘立柱建物・土坑・ビット。 円面硯。	22
23		尼崎市南清水310・311	確認	落込み状遺構（園田大塚山古墳の周溝 か）。	23
24	大塚山古墳	尼崎市南清水	発掘	墳丘・埋葬施設・副葬品。	24・25

文献一覧（表1の文献番号と一致）

- 1 岸本一宏ほか編2013『南町道跡』兵庫県文化財調査報告第443冊 兵庫県教育委員会
- 2 岸本一宏・仁尾一人編2007『南本町道跡・北村道跡』兵庫県文化財調査報告第320冊 兵庫県教育委員会
- 3 鎌 英記編1998『南本町道跡』兵庫県文化財調査報告第179冊 兵庫県教育委員会
- 4 遠藤啓輔2013「猪名寺道跡（第1・2次）」『尼崎市埋蔵文化財調査年報 平成19年度・20年度（1）』尼崎市教育委員会
- 5 高梨政大・遠藤啓輔2013「猪名寺道跡（第3次）」『平成23年度国庫補助事業尼崎市内遺跡発掘調査等概要報告書』尼崎市文化財調査報告第42集 尼崎市教育委員会
- 6 高梨政大・山上真子2010「猪名寺庭寺跡（第13次）」『尼崎市埋蔵文化財調査年報 平成16年度』尼崎市教育委員会
- 7 岡田 務2013「猪名寺庭寺跡（第12次）」『平成12・13年度国庫補助事業 尼崎市内遺跡復旧・復興事業に伴う発掘調査概要報告書』尼崎市文化財調査報告第33集 尼崎市教育委員会
- 8 井上 亮2021「前畑道跡（第42次）」『平成31年度（令和元年度）国庫補助事業尼崎市内遺跡発掘調査等概要報告書』尼崎市文化財調査報告第50集 尼崎市教育委員会
- 9 遠藤啓輔2017「前畑道跡（第21次）」『尼崎市埋蔵文化財調査年報 平成22年度』尼崎市教育委員会
- 10 遠藤啓輔2017「前畑道跡（第19次）」『尼崎市埋蔵文化財調査年報 平成22年度』尼崎市教育委員会
- 11 遠藤啓輔2017「前畑道跡（第20次）」『尼崎市埋蔵文化財調査年報 平成22年度』尼崎市教育委員会
- 12 高梨政大2010「前畑道跡（第15次）」『尼崎市埋蔵文化財調査年報 平成16年度』尼崎市教育委員会
- 13 遠藤啓輔2017「前畑道跡（第27次）」『平成27年度国庫補助事業尼崎市内遺跡発掘調査等概要報告書』尼崎市文化財調査報告第46集 尼崎市教育委員会
- 14 岡田 務2004「前畑道跡（第82次）」『平成12・13年度国庫補助事業 尼崎市内遺跡復旧・復興事業に伴う発掘調査概要報告書』尼崎市文化財調査報告第33集 尼崎市教育委員会
- 15 遠藤啓輔2010「前畑道跡（第18次）」『平成20年度国庫補助事業尼崎市内遺跡発掘調査等概要報告書』尼崎市文化財調査報告第40集 尼崎市教育委員会
- 16 高梨政大2008「前畑道跡（第17次）」『平成19年度国庫補助事業尼崎市内遺跡発掘調査等概要報告書』尼崎市文化財調査報告第38集 尼崎市教育委員会
- 17 益田日吉2000「前畑道跡（第5次）」『平成9年度国庫補助事業 尼崎市内遺跡復旧・復興事業に伴う発掘調査概要報告書』尼崎市文化財調査報告第29集 尼崎市教育委員会
- 18 岡田 務2000「前畑道跡（第7次）」『平成9年度国庫補助事業 尼崎市内遺跡復旧・復興事業に伴う発掘調査概要報告書』尼崎市文化財調査報告第29集 尼崎市教育委員会
- 19 武藤 誠1971『中ノ田道跡』兵庫県文化財調査報告書第2冊 兵庫県教育委員会
- 20 岡田 務1991『尼崎市中ノ田道跡Ⅲ』尼崎市文化財調査報告第22冊 尼崎市教育委員会
- 21 岡田 務1999「中ノ田道跡（第13次）」『尼崎市埋蔵文化財調査年報 平成6年度』尼崎市教育委員会
- 22 岡田 務1998「中ノ田道跡（第12次）」『尼崎市埋蔵文化財調査年報 平成5年度』尼崎市教育委員会
- 23 木元誠二・山上真子2014「中ノ田道跡（第20次）」『平成24年度国庫補助事業尼崎市内遺跡発掘調査等概要報告書』尼崎市文化財調査報告第43集 尼崎市教育委員会
- 24 梅原未治・小林行雄1941「園田村大塚山古墳と其の遺物」『兵庫県史蹟名勝天然記念物調査報告』第15輯 兵庫県
- 25 岡田 務1987『尼崎市中ノ田道跡Ⅱ（大塚山古墳を中心として）』尼崎市文化財調査報告第18冊 尼崎市教育委員会

## 第2章 調査の経過

### 第1節 調査に至る経緯と経過

伊丹市南町2丁目で伊丹南町団地建替事業（第2期）が兵庫県住宅供給公社によって計画された。当該事業では既設の居住棟2棟の解体及びその跡地における居住棟1棟の新設が計画された。

事業予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地外であったが、南町遺跡（兵庫県遺跡番号：080085）に隣接した。南町遺跡では平成21年度に兵庫県教育委員会によって伊丹南町団地建替事業（第1期）に伴う本発掘調査が実施されていることから、今回の事業範囲についても、埋蔵文化財が存在する可能性が高いと考えられた。そのため、兵庫県住宅供給公社及び県立考古博物館の協議に基づき、詳細分布調査を実施することとなった。

詳細分布調査の結果、事業用地にも埋蔵文化財が遺存していることが明らかとなったことから、伊丹市教育委員会との協議により、「南町遺跡」の範囲が東に拡張され、事業用地の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲となった。

その後、兵庫県住宅供給公社から、令和3年6月2日付け兵住公第91号により、埋蔵文化財発掘通知が提出された。当該事業による埋蔵文化財の毀損が避けられないことから、当通知に対しては、兵庫県教育長より、令和3年6月21日付け教文第1442号で「発掘調査の実施」が指示・勧告された。これを受け、兵庫県住宅供給公社より、本発掘調査の依頼（令和4年7月19日付け兵住公第115号）が出され、この依頼に基づき、兵庫県立考古博物館総務部埋蔵文化財課職員による本発掘調査を実施し、記録保存を行った。

調査は令和4年8月8日に開始した。調査区は3箇所に分かれていたため、北側の調査区から南側の調査区に向かって1～3区として調査を行った。調査面積は549㎡である。

調査では、現代盛土以下を重機により掘削し、地表下約1.2mで地山を検出した。この上面を遺構検出面として調査を行った。検出した主な遺構は、溝・土坑・ピット・埋納遺構などである。検出遺構は人力で掘削し、図面作成・写真撮影などの記録作業を適宜行った。令和4年9月9日には全ての現場作業を終了した。

### 第2節 出土品整理

南町遺跡の出土品整理作業は、令和5年3月16日付け兵住公第346号により兵庫県住宅供給公社から兵庫県教育委員会へ提出された依頼に基づき、令和5年度に実施した。

兵庫県教育委員会が出土品整理作業を公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターに委託し、兵庫県立考古博物館で実施した。

実施内容は、出土遺物の洗浄・接合・補強・実測・復元・写真撮影・遺物実測及び遺構図面等のトレース・レイアウト、原稿を執筆し、報告書を刊行した。調査の体制は以下の通りである。

調査担当者：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部 企画調整課 鈴木康高

整理担当職員：同上 整理保存課 深江英恵 大嶋昭海 野田優人 稲本悠一 別府洋二

整理技術員：荻野麻衣 新山王綾子

遺物写真撮影：株式会社 地域文化財研究所

## 第3章 遺 構

### 第1節 基本層序 (図版2～4)

調査地の現状は、先の建物解体工事による影響により若干の凹凸があるものの、ほぼ平坦で標高9.8～10.0mである。現地表面から0.8～1.1mが現代盛土で、その下に江戸時代以降の耕作土が厚さ0.1～0.2m程度堆積する。ただし、2区では、後世の擾乱により、江戸時代以降の耕作土は見られない。江戸時代以降の耕作土直下には、時期不明の耕作土と見られる灰オリーブ色極細粒砂とその床土である黄褐色シルト、にぶい黄褐色シルト、包含層、地山の順で堆積する。遺構検出は、地山上面で行った。

包含層は、調査区全域で確認できるものの遺物の出土量はやや少ない。地山上面の標高は、1区で標高8.9m、2区で標高8.8m、3区で標高8.7mとなっており、北から南に向かって緩やかに傾斜する。また、2区の北西部のみで、東から西に向かってわずかに窪み、黒褐色シルトや黒色シルトが堆積する。

### 第2節 1～3区の遺構 (図版1・5～8)

#### (1) 1区

1区では、溝・土坑・ピットを検出した。東半部の遺構密度は薄い。

**SK5** 調査区北部の中央部で検出した。南側は調査区外に広がる。検出できた平面形は半円形で、東西2.5m、南北1.9m、深さ0.3mである。遺物は出土しなかった。

**SK15** 調査区西部で検出した。東側は調査区外に広がる。検出できた平面形は長方形で、東西0.5m、南北2.2m、深さ0.2mである。

**SK16** 調査区西部で検出した。平面形は隅丸方形で、東西1.9m、南北2.0m、深さ0.3mである。遺物は出土しなかった。

**SK19** 調査区南西部で検出した。南側は調査区外に広がる。検出できた平面形は半円形で、東西2.5m、南北0.6m、深さ0.3mである。遺物は出土しなかった。

#### (2) 2区

2区では、溝・土坑・ピット・埋納遺構を検出した。西半部の遺構密度が高く、およそ1～2m程度の土坑が多く見られる。

**SK3** 調査区北西部で検出した。平面形は楕円形で、東西1.1m、南北1.6m、深さ0.2mである。遺物は出土しなかった。

**SK21** 調査区北西部で検出した。平面形は長方形で、東西1.3m、南北1.0m、深さ0.3mである。遺物は出土しなかった。

**SK28** 調査区北西部で検出した。平面形は楕円形で、東西0.7m、南北0.9m、深さ0.5mである。遺物は、埋土上層から須臾器の壺が出土した。

**SK55** 調査区南西部で検出した。平面形は長方形で、東西1.9m、南北1.3m、深さ0.2mである。遺物は出土しなかった。

**SK60** 調査区北西部で検出した。平面形は長方形で、東西0.9m、南北1.3m、深さ0.2mである。遺物は出土しなかった。

**SK71** 調査区北西部で検出した。平面形は不整形で、東西1.3m、南北2.0m、深さ0.3mである。遺物は埋土から須恵器の壺（4）が出土した。

**SK75** 調査区北東部で検出した。東側は調査区外に広がる。検出できた平面形は半円形で、東西0.5m、南北0.9m、深さ0.2mである。遺物は出土しなかった。

**SK91** 調査区南西部で検出した。平面形は楕円形で、東西1.7m、南北2.4m、深さ0.3mである。遺物は出土しなかった。

**SK92** 調査区南西部で検出した。平面形は楕円形で、東西1.4m、南北1.6m、深さ0.3mである。遺物は出土しなかった。

**SX76** 調査区北東部で検出した。平面形は円形で、直径約0.29m、深さ0.24mである。中央部では須恵器の壺（6）が正位で出土した。掘形底部と須恵器壺の間には、2層の黄灰色シルトがあることから、底部をならしてから須恵器壺を置いている。出土状況から埋納遺構と考えられる。今回の調査では、これと関係する遺構を見いだすことができなかったため、何を目的とした埋納行為であったかは不明である。

### （3）3区

3区では、調査区東半部において、SD 1～5の平行する溝を5条検出した。いずれも、北に対して東に振る。幅0.4～0.5m、深さ0.2m程度である。出土遺物がなく時期は不明である。その様相から畑地等の耕作に伴う耕作溝と考えられる。

## 第4章 遺物

### 第1節 遺物の概要

調査では整理コンテナにして3箱の遺物が出土した。出土遺物には土器類・瓦類・埴輪がある。出土遺物の大部分は包含層から出土しており、遺構に伴う遺物はわずかである。また、包含層に含まれる土器類等の遺物量も多くはない。

出土した遺物には、図化したもの以外に鎌倉時代の青磁や古代に属すると考えられる瓦、円筒埴輪などがあるが、小片のため図化できなかった。

### 第2節 土器類（図3、図版9）

1は須恵器である。2区包含層から出土した。小片のため、器種は不明である。長軸8.0cm、短軸5.7cm内面に同心円状のタタキ痕が残る。時期は古墳時代後期に属する。

2は須恵器の甕である。1区包含層から出土した。口径25.9cm、残存高10.7cmである。焼成は不良で、やや軟質で器壁表面の残り具合も良好ではない。口縁端部外面直下には、2条の波状文をめぐらせる。頸部内面には指オサエ痕が残る。時期は古墳時代後期に属する。

3は須恵器の甕である。2と同様に1区包含層から出土した。口径41.9cm、器高68.25cm、体部最大径61.8cm、底径13.6cmである。焼成は良好である。体部外面は、格子タタキ後左上がりのハケ目調整で、体部内面には同心円状のタタキ痕が残る。口縁端部外面直下には、2条の沈線と波状文をめぐらせる。底部は口縁部を水平に据えると、中心部から外れており、焼成時に歪んだものと考えられる。時期は古墳時代後期に属する。

4は須恵器の短頸壺である。2区SK71から出土した。肩部より上方を欠損する。残存高14.0cm、底径7.4cmである。焼成は良好である。体部は内外面ともに回転ナデ、体部外面下端は静止ヘラ削りである。不明瞭ではあるものの、底部外面には静止糸切り痕が見られる。

5は須恵器の小片である。2区SX76から出土した須恵器の6内から出土した。SX76はその出土状況から埋納遺構と考えられ、5は6の埋没過程で混入した場合と意図的に納めた可能性のどちらとも捉えうる。その性格を明らかにし難いが、埋納遺構からの出土という点を積極的に評価すれば、意図的に納められたとも考え得る。

6は須恵器の短頸壺である。2区SX76から出土した。口縁端部を欠損する。残存高23.7cm、体部最大径17.3cm、底径10.6cmである。焼成は良好である。体部内外面ともに回転ナデの痕が強く残る。底部外面には砂粒が付着する。

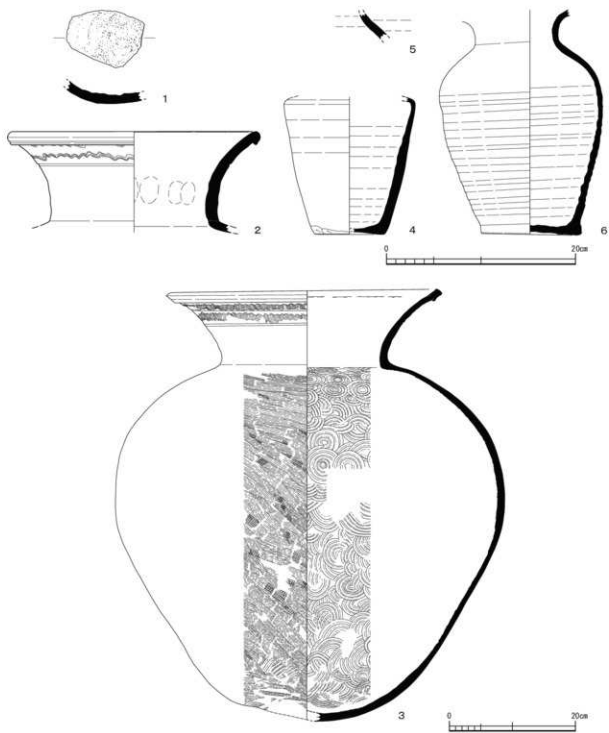


图3 土器实测图 (1 : 4 · 1 : 6)

## 第5章 まとめ

今回の調査では、南町遺跡の東半部で調査を行い、土坑や埋納遺構などを検出した。

土坑は、主に1・2区の西半部で多数検出しており、東半部や3区では検出していない。平面形は主に長方形や楕円形を基本とし、規模は1～2.5m程度と差が認められる。また、遺構埋土から遺物の出土がないため、時期の判断が難しい。

ただ、西側隣接地の調査（図2の調査2）では、より密集した土坑群が検出されており、古墳時代中期末前後の土取り穴群と考えられている。

本調査で検出した土坑は、隣接地で検出した土坑群に比べ、まばらである点で様相が若干異なるものの、共通した要素を持つ。このことから、本調査で検出した多数の土坑は、土取り穴と捉えうる。土取り穴が調査区の西半に分布し、かつ群集しないことは土取り地の縁辺部に位置し、西側がその中心地であったと考えられる。西側の調査2の土質の方が良かったのであろう。

また、顕著な遺構として2区北東部で埋納遺構SX76を検出した。本調査では、関連する遺構を検出することができなかつたため、詳細な性格の検討はできないものの、土地利用があったことを明らかにすることができた。

調査の結果、古墳時代から古代にかけての土地利用の様相の一端を把握することができた。特に、古墳時代の土取り行為が一定範囲で行われていることから、近辺では取った土を利用した何かしらの行為が行われていたことが想定できる。今後の調査で、その利用実態などが明らかになることを期待したい。



## 報 告 書 抄 録

ふりがな	みなみまちいせき							
書 名	南町遺跡							
副 書 名	伊丹南町団地建替事業（第2期）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告							
シリーズ番号	第532冊							
編著者名	鈴木康高							
編集機関	公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部							
所在地	〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号（兵庫県立考古博物館内） ℡079-437-5561							
発行機関	兵庫県教育委員会							
所在地	〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号 ℡078-362-3784							
発行年月日	令和6（2024）年3月25日							
資料保管機関	兵庫県立考古博物館							
所在地	〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号 ℡079-437-5589							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間 (遺跡調査番号)	調査面積 (㎡)	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
みなみまちいせき 南町遺跡	いただしみなみまち 伊丹市南町2 丁目	28207	080085	34° 46' 05"	135° 25' 09"	令和4年8月8日 ～令和4年9月9日 (2022065)	549㎡	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
南町遺跡	集落跡	古墳時代～古代	土坑、ピット、溝、 埋納遺構		須恵器		土器を埋納した土坑	
要約	<p>南町遺跡では過去の調査で、古代～中世の水田、古墳時代中期の土取り穴群が検出された。本調査は、既往の調査の東側隣接地にあたる。地山上面で多数の土坑と埋納遺構を検出した。土坑からの出土遺物はなく、時期を判断することが難しいが、隣接地での調査成果から、古墳時代と考えられる。また、埋納遺構については、この時期に土地利用があったことを明確に示す資料となった。</p> <p>周辺には特に古墳時代から古代にかけての遺跡が比較的密に分布しており、本調査地でも同時期の遺構が広がるとともに、土地利用の一端を明らかにすることができた。</p>							

---

---

兵庫県文化財調査報告 第532冊

伊丹市

# 南 町 遺 跡

－ 伊丹南町団地建替事業（第2期）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 －

令和6（2024）年3月25日 発行

編集：兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号（兵庫県立考古博物館内）

発行：兵庫県教育委員会

〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

印刷：株式会社 ソーエイ

〒673-0898 明石市樽屋町6番6号

---

---

